

平成22年度概算要求における科学技術関係施策(競争的資金)(新規案件)

(金額の単位:百万円)

優先度 (原案)	優先度 (最終決定)	施策名	所管	概算 要求額	戦略 重点	最重要 政策課題	重点推進 課題	競争的 資金	施策の概要 (施策の必要性)	ヒアリング時における有識者コメント(有識者 議員名)	ヒアリング時 における外部専門 家コメント(匿名)	優先度の理由(原案) (分野としての技術課題等、競争 的資金の場合は、制度面での課 題も指摘)	優先度の理由(最終決定) (分野としての技術課題等、 競争的資金の場合は、制度 面での課題も指摘) (パブリックコメントの主な 例)
C	C	戦略的基礎科学研究強化プログラム[競争的資金]	文部科学省	2,000					<p>我が国の基礎科学力の強化を通じ、継続的に画期的なイノベーションを創出するため、優れた目利きにより、傑出した成果を出しうる潜在能力を持つ研究者を厳選。長期間(最長10年)にわたってじっくりと考え継続的に研究できる環境を提供し、大きなイノベーションにつながる世界的な基礎研究成果の創出を図る。</p> <p>○研究スキーム ・国内外のノーベル賞級研究者を含む有識者委員会で研究者を選定。 ・マネージメント経験を備えた研究者を想定。研究の進め方、体制等は、研究者の考え方や経験値等により柔軟に設定。</p> <p>・研究開始後5年目に発展性評価を実施し、研究継続を判断。 ・1領域あたりの予算規模:最大500百万円(うち間接経費:最大105百万円) ・採択予定領域数:4程度 ・その他事務経費等:180百万円</p>	<p>○科研費の枠組みでやる方がよい。そこに予算を集約すべき。若手については、「さきがけ」あるいはERATOとどこが違うのか。一件あたり5億円は過大。(本庶佑議員)</p> <p>○基礎研究強化は重要であるが、新規施策としての特徴は不明確。特に戦略的基礎研究の位置付けが明確でない。(相澤益男議員)</p> <p>○10年を超えるプログラムで想定される事業規模も大きい。期待される成果が見えにくい。科研費補助金等の他の基礎研究プログラム内で再検討すべき。(奥村直樹議員)</p> <p>○ERATOと比べた付加価値が不明。既存のプログラムをつなげて同じことができるのではないかと。特に1年目は、4領域から応募可、採択は1つではないかと。(青木玲子議員)</p> <p>○ポテンシャルのある研究を行う成果が判断しにくいことと、10年の長期であることで評価しにくい。(今榮東洋子議員)</p>	<p>○我が国の基礎研究を促進するという目的は極めて重要であるが、そのための制度設計としては、科学研究費補助金や、戦略的創造研究推進事業など、既存の制度の中で十分行うことが可能である。 ○一件当たり最大で5億円、最長10年は過大である。また中間評価段階で成果が出ていなくてもポテンシャルを評価して支援を継続する運用方法が不明確であり、これらの制度運用方法の見直しが必要である。(本庶佑議員)</p>	<p>原案と同じ。 (本庶佑議員)</p>	